

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	NPOグループホームだいこんの花
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	岐阜県関市西神野605番地1
記入者名 (管理者)	野村周平
記入日	平成20年11月11日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所名(だいこんの花)のとおり、本人本位らしく、家族愛を大切にされる。 散歩に出たり、畑仕事をしたい方のために畑もある。 それらを活用して日々の生活を楽しんでいただけるよう取り組んでいる。	○	本人本位らしく、チーム全体で話し合うよう取り組みたい。 ゲーム等に参加することを喜ばない方にも喜んでいただけるような行事を考える。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等で理念を通して職員全体で話し合っている	○	職員同士が今以上に話し合う時間が欲しい 利用者様は何を望んでいるかよく話を聞いたりし、本人ののぞみの沿うように取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や交流センターでの交流を利用し、地域の方、家族に少しでも多くの理解を得られるよう取り組んでいる。	○	運営推進会議の情報をもっと職員に伝え、活かせるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	事業所敷地内に交流センターがあり、喫茶店として地域の方々に利用していただいている。 利用者様、職員も利用している。	○	事業所内にこもることのないようにどの利用者様も散歩や買い物、季節の移り変わりを肌で感じたり見たりしてほしいと思う。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会合等に理事長や施設長が参加し、ホームへの理解を得ている。 地域のお祭り等にも参加させていただいている。 地域の中学生在がボランティア活動として来訪して下さる。	○	利用者様と共に参加できる地域行事や学校行事にはどんどん参加していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会集会などに参加させていただき、グループホームの現状を報告している。 地元中学校の授業の一環として「職場体験学習」があり、中学生の受け入れ等も行っている。	○	自治会に参加したりするが、利用者様のケアで手一杯になり、地元高齢者様の事に関して手が回らない部分があるので、利用者様と地元高齢者様の両方のことを考え、円滑に事業運営ができるよう進めていきたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。 毎年外部評価を受け、その結果を職員に報告し、職員のレベルを上げるよう努力している。	○	外部評価を実施する意義は理解しているが、評価結果を活かすことができていないため、今以上に評価結果を重んじ、日頃のケアに反映させていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い、市、地域、家族の意見を取り入れられるような話し合いをしている。 議事録として内容を残し、職員、家族に伝え、ホーム内の改善、サービスの向上に努力している。	○	自治会・市とそれぞれの役員の方が参加されているが、意見が反映するのが難しい事もある。できるだけ反映し、報告できるようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員が、近くに来られたときは、様子を見に来てくださることもある。 事業所からは、月に何度か高齢福祉課に行き、情報交換等を行っている。	○	まだまだ地域には利用したい方が見えるので、市担当者・自治会等と話し合い、説明会等をすると思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護について知らないことが多くある。	○	パンフレットや書籍等を読み、管理者だけでなく職員も理解、説明できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いに気をつけている。 虐待防止法等、学ぶ機会があれば参加している。 虐待は事業所内ではないが、入浴時などに打撲痕等がないか気をつけている。 ミーティング時に虐待防止について説明したり、暴力だけでなく、言葉使いでの虐待についても話し合い、普段のケアに反映させている。	○	言葉使いがまだまだ徹底されていないことが多くあるため、接遇研修などに参加して勉強していきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者に対して事前に契約書・重要事項説明書など契約書類を渡し、持ち帰って読んでいただいている。 契約時に不明な点があれば理解していただけるまで説明をし、契約に臨んでいる。 契約時には管理者・介護支援専門員が立ち会いして行っている。	○	管理者・介護支援専門員だけでなく、職員も契約について学び家族から契約内容に関して疑問等があれば答えられるようにしていきたい。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で小さな意見・不満も見逃さず、居心地のわるいグループホームにならないようにミーティング等で全員に伝え、改善している。 市の相談員の受け入れをし、意見を聞いている。	○	特定の職員の中だけで利用者様の意見を消化させてしまっていることがあるので、利用者様のことを考えながら全員で問題解決に向かっていきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所からの請求に併せ、紙面にて報告をしている。 頻繁に家族が来訪していただけるので来訪時に記録等を見ていただき報告している。	○	便りのようなものを作成し、写真等を組み合わせたりして家族に報告できると良い。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情解決機関を示している。 契約時には苦情・要望書を3～4枚渡し、匿名で利用できるようにしている。	○	お世話になっているという感覚から苦情等は出にくいと思われる。 家族が遠慮無く苦情・意見が言えるような環境作り等をしていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回行い、事業所・管理者本位の運営にならないように職員の意見も聞き、相互に歩み寄りながら反映させている。	○	長期にわたることやお金のかかることなどもしっかりと先を見据えてプライオリティの高い問題から進めていきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月、希望休を聞き、たたき台となる勤務表を作成し、都合に合わせて職員同士で勤務交代をして勤務表を作成している。	○	職員数に限りがあるため、勤務交代ができないこともある。 職員がストレスを感じないような職員配置をして勤務交代がもう少し簡単にできると良い。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族には職員の離職・異動等は早めに伝え、引き継ぎ等に漏れのないようにしている。 利用者様には職員がいなくなったことに対して不安感が発生しないように細心の注意を図っている。	○	引き継ぎ等が完全ではないため、仕事の仕方が変わる場合があるので、徹底していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で講師を招き、勉強会を行ったり、事業所毎に勉強会を行っている。	○	職員数に限りがあるため、外部講習を受けることが困難なため、余裕ある人員配置をして外部講習を受けられるようにしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・介護支援専門員は事業所会議や協議会を通じて交流がある。	○	職員も相互の施設見学や勉強会を通じて職員交流・事業所交流ができるともっと職務内容が充実したものになると思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に数回の親睦会等を行い、ストレス軽減に取り組んでいる。	○	日常の業務に追われ、ゆっくりと話を聞く時間がないため、業務内容、日課等を見直し、月に1度程職員の不満や現状を聞いてもらえる時間がとれるとよい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況・細かくはその時々ケア方法などを指導している。 頻繁に事業所に来られ、利用者様・職員に声をかけて下さる。 職員個人の努力等はとてもよく理解して下さる。	○	他事業所との労働条件に差があるため、他の事業所も参考にして欲しい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用前に管理者・介護支援専門員が利用者様と会い話を聞き、入居時に不安がないようにしている。 入居後はできるだけ職員がその人のことを理解するためにストレスにならない程度に話しをし、記録に細かく記載している。	○	最初の情報をもっと細かく書いてもらえると良い。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居問い合わせ情報ファイルを作成し、細かく聞き、サービスがすぐに必要な方は優先的に入居できるようにしている。	○	利用者様の希望を聞いた上で、家族の話を聞き、事業所全体でどこまでできるかをしっかりと話し合えるとよい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が情報シート、センターシート等を作成後、それらを活用し、職員同士が話しをしながら見極めを行っている。	○	突然の利用等で必要なサービスがわからない場合もあるので、入居までの期間がもう少し余裕があるとよい。グループホームだけに拘らず、他サービスの併用利用も考え、利用者様が快適に過ごせる環境作りができると良い。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけご本人様にも同席していただき契約を交わしている。 契約前には事前面接をし、突然知らない顔ばかりで不安にならないようにしている。	○	入居前に何日か慣れるための期間があると良い。日中だけの利用など。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であることを念頭に置き、利用者様を敬い押しつけのようになることはしないように心がけている。 利用者様も職員もできるだけ一緒に過ごし、時間を共有し、お互いの感情をわかり合え同情できるような関係作りを目指している。	○	あと1人、日中の職員がいると今以上に利用者様との関わりが増えてくると思う。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様本人とご家族様の両方から話を聞き、ご家族様には家族と事業所が共にご本人様を支えていくことを理解していただき、同時に事業所はご家族様の負担も軽減できるように努力している。	○	入居当初はいいが、だんだんと疎遠になっていってしまうご家族様もみえるため、継続していけるように事業所から声をかけ、いつまでも利用者様、ご家族様が笑っていられるような関係作りをしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様に現在の利用者様の状況を細かく伝え、現状を理解していただき、利用者様にはご家族様が必要であることを理解していただいている。	○	ご家族様が来訪されたときにはできるだけ多くのコミュニケーションを図っていただき、利用者様本人の言葉を聞いていただけるようにしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にお付き合いのあった方などの来訪はご家族様に了解を得て断ることなく来ていただいている。 馴染みの店などにも行き、今までの生活状況を大きく逸れないようにしている。	○	他の業務に追われ、行きたい美容院が訪問美容院になっている方もみえるので、定期的に馴染みの店に通い、喜んでいただきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎月のミーティングにおいて利用者様同士の事について話し合い、利用者様の生活の中ではできるだけ職員が間に入り関われるようにしている。	○	日中に居室から出てこれない方がみえるので、声をかけてもっと他の利用者様と良い関係作りができるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用 (契約) が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転居された方に限り、定期的にご家族様と連絡を取り、現状を聞いた上でホームに遊びに来ていただいたりして関係を継続させている。	○	ホームの行事などにも声をかけ、参加していただけるようにするとよい。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の過去の生活歴を把握した上でホームで希望される生活に取り入れ、実現できるように努力している。 困難な場合は、その旨を伝え、代案を利用者様と共に考えている。	○	希望される生活を取り入れるにはご家族様の協力も必要になることもあるが、協力が難しい事もあるが、できるだけ協力していただけるように声をかけていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の過去の生活歴、ご利用サービス歴を把握し、継続した方が良いと判断されることで、事業所内でできることは継続できるように心がけている。 その後の経過は、ケアプラン、モニタリング等を活用している。	○	現在は、管理者と介護支援専門員が主になってご家族様と話しをされているが、職員も積極的にご家族様と関わりを持ち、利用者様のバックグラウンドを理解してケアに取り組めるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護日誌、個人介護記録等を利用し、利用者様個人の情報を共有して現状把握をしている。	○	個人介護記録の内容が非常に乏しく、家族に見せるには情報として少ないため、記録は大変だと思うが、もう少し細かく記録できるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり、ご家族様が来訪されたときにはご家族様と話し合い、利用者様本位の生活作りができるよう介護計画を作成している。 作成した介護計画はご家族様の確認をいただいたあとに職員に見てもらい、日頃のケアの中に取り入れている。	○	ご家族様と事業所の意見が強くなってしまいがちなので、職員ももっとチームの一員として意見を述べて利用者様が快適に過ごせる介護計画作りができるとよい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本を3ヶ月の見直しにし、状況に応じて介護計画を変更している。 急な変更があるときにはご家族様等に確認をし、計画変更等を行っている。	○	急な変更があると見落としになってしまうことがあるので、申し送り方法等を見直して抜けのないようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録を記入し、その時の状況がわかるようにしている。 介護記録に基づきミーティング等でケアの方法の見直し、介護計画の見直しを行っている。	○	個人介護記録の内容が非常に乏しく、後々情報の見直しというには情報として少ないため、記録は大変だと思うが、もう少し細かく記録できるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院等は基本的にはご家族様でお願いをしているが、急用等の場合、事業所で支援をするようにしている。 また、併設されている小規模多機能型居宅介護施設に遊びに行く等、他事業所との交流も行っている。	○	通院には職員もついて行けると良い。 (病状把握のため)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元中学校との交流を始め、ハンドベル、落研等多くのボランティアに入っている。 消防署にご協力をいただき、避難訓練を定期的に行っている。	○	市文化機関の協力が少ないため、協力してもらえると生活の中に楽しみも生まれると思う。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護支援専門員同士で交流を持ち、事例検討、相談などを行い、利用者様本人にとって一番良いと思われるサービスの提供に心がけている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの多大な協力があり、介護支援専門員1人で介護計画を作成するのではなく、相談等も受け入れてもらっている。 頻繁にセンター職員が来訪してくださる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様本人の希望するかかりつけ医への受診、往診があり、適切な医療行為が受けられている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけとなっている認知症専門医とご家族様、看護師との相談で適切な治療をしていただいている。 急な場合でも電話等で対応をしていただいている。	○	相談をするメンバーの中で職員が入りにくくなっている。 普段の受診で関わりがないためであり、受診に職員も同行して話を聞くことができるとよい
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置し、毎日の利用者様の健康管理をしている。 ご家族様、主治医との医療に関する連携もとれている。	○	看護師に頼り切りにならないように医療行為でないことで看護師が実施していることは介護職員もできるようにしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院されたときには管理者・介護支援専門員が見舞いに行く等現状把握に努め、看護師は主治医との退院後の相談等を行いスムーズに元の生活に戻れるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は医療行為が日中に行わなければならない状況になったときには退居をお願いしている。	○	重度化になってもホームでの生活を希望される方にはその望みを叶えられるように方針を立て、最後まで生活していただける事業所にしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	NO.47に同じ	○	NO.47に同じ
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	管理者、介護支援専門員が事前面接をし、利用者様が心の負担を感じないようにご家族様と相談して入居までの流れを作っている。	○	最初は納得して入居されるが、認知症のため不穏になることがある。 そういふときの対処方法やケア方法を徹底できると良い。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の大先輩であることを念頭に置き、利用者様に対して失礼に当たらないような言葉かけをしている。 個人情報に関しては、公的に施設外に出すときはご家族様の許可を得ている。	○	利用者様と話していて盛り上がったときなどは言葉が汚くなることもある。 職員同士お互いに注意し合って適切な言葉対応ができるようにしていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段からできるだけ利用者様本位での生活に心がけ、外出し買い物等に出かけたときも自分の欲しいもの、必要なものは自分で選んでいただいている。	○	時間に追われ、どうしても自己決定できる場面ばかりではないため、余裕、計画性のある日課をその都度すすめていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個人個人のペースを尊重し、食事等の最低限の時間だけを決め、あとは利用者様が希望される過ごし方をいただいている。	○	入浴時間などもシフト上、日中に限られてきてしまっているので、1日の流れすべてにおいて利用者様それぞれの過ごし方ができるように調整していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性で化粧道具を持たれている方や、普段から身だしなみに気をつけている方には毎日化粧の支援をし、その他の方も整髪、清潔保持の支援をしている。 理美容に関しては1部の方のみご本人様が望まれる美容院に通われている。	○	現在、訪問理美容に来ていただいているが、それぞれの方が馴染みの床屋、美容院があったと思うので、ご家族様と相談をしてそれぞれの馴染みであった理美容室に行けるようにしていきたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様は女性が多く、包丁使いも上手な方が多いので、食事作りの際はよく手伝って下さっている。 食事の時に手伝っていただいた利用者様の話をすることで、次回の食事作りへの活力になっていることもある。 食事は利用者様と職員が一緒になって見守りをしながら同じものを食べている。	○	食事作りをして下さる方が決まっている。 調理器具が不足していることややるべきことが少ないことが原因と思われるので、調理器具の充実をし、次の日の下ごしらえなどでみんなで食事作りが楽しめるようにしていきたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様個人の嗜好品などはできるだけ楽しめるようにしている。	○	たばこ・お酒などは好まれる方が入居される前に情報として周知し、どのように取り扱いをするか話し合っているが、その時々で違っているので、しっかりとした取り扱いを決めると良い。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間やその時の飲料された量、状況に応じて声をかけ、トイレでの排泄をしていただいている。 パターンを知るために現在、排泄チェック表を活用して、おむつ外しができるようにミーティング等で話し合っている。	○	排泄時に職員が見ていないうちにトイレに行かれ、トイレでの失敗が時々みられるので、必ず見守り、介助をし、利用者様本人が落ち込まないようにフォローしていきたい。
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中から夕方までの間で入浴できるように準備をし、入浴予定でない方にも声をかけて入りたいときに入っていただくようにしている。 入浴拒否をされた方には時間をおいたり、職員を変えて声をかけて入浴していただき、入浴を楽しんでいただくようにしている。	○	NO.52と同じ
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は昼夜逆転にならない程度に休んでいただき、夕食後には消灯時間を定めずに好きな時間に寝ていただけるようにして日中も夜間もゆっくりと休んでいただけるようにし、あえて余分な声かけはしないようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様個人にお任せできることがあれば手伝っていただいたり、月に1度の行事などでも役割を持っていただき、楽しみのある生活を送っていただくように支援している。	○	ADLが安定している方はとても張り合いのある生活だと思うが、ADLが安定していない、または低下している方への支援をもう少し考え、全員が差無くグループホームでの生活が楽しめるように支援していきたい。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で小口現金を預かっているが、希望される方にはご家族様にご理解をいただき利用者様に少額を個人管理していただいている。 買い物時などには個人管理をしているお金を持って買い物をしていただいている。	○	利用者様が個人管理をしているお金は事業所が管理をしていないため、無くしたときがとても不安になられる。個人管理の方法を見直し、お金に関する事で利用者様が不安にならないように考えていきたい。
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候に合わせて散歩、ドライブ、買い物等希望があれば外に出るようし、希望がなければこちらからも案を出し、屋根の下だけで1日が終わらないようにしている。	○	時間に追われたり、職員配置の関係で、希望を叶えられないこともある。 利用者様の1日1日を大切に考え、ノーと言わない介護を目指したい。
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様の支援をいただき、外出等にも参加していただいたりしている。 また、市内等でお祭り、イベント等が開催される時には、他事業所の職員の協力も得ながら参加している。	○	都合で参加していただけないご家族様がいらっしゃるとご家族様が来ていない利用者様が寂しがるため、差が出ないように全員が参加できるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に手紙を書く方や、電話を希望される方がみえるので、希望に添った支援をしている。 電話に関しては、事前にご家族様の許可を得て電話をさせていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご親戚、ご友人がいつでも訪問していただけるように事業所を開放している。 来られた際は、お茶を出すだけで、ゆっくりとその時間を楽しんでいただけるように心配りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを基準に身体的、精神的にも拘束をしないようなケアをしている。	○	身体拘束ゼロの中に言葉使いも含まれていることを職員全員が把握していないため、言葉使いが乱暴になることもあるので、再度職員全員で勉強し徹底していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に鍵を掛けるのは夜間だけと決め、日中は自宅と同じく鍵を解放して外と中を自由に行き来できるようにしている。	○	日中に鍵を掛けないケアをしているが、職員が気を抜いたときに外へ1人で出て行ってしまっていることがあったので、必ず職員がついて行くように徹底したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者様に見張られているという思いを感じさせないように所在を確認し、不安全なことがないか把握している。	○	把握の仕方によって利用者様の気分を害してしまう場合があるので
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様にとって危険なものはできるだけ事故を未然に防ぐ意味で排除しているが、どこの自宅にもおいてあるような物は、物に合わせて適切な位置に収納するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応マニュアルを作成して緊急時には誰もが対応できるようにいつでも見られる場所におかれている。	○	事故防止に関してマニュアルもまだ読んでいない職員もいるため、勉強会を開いて職員個人の意識向上を目指したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	NO.69と同じ	○	日中は看護師に頼り切っている部分があるので、夜間の対応も含めて救急法などを勉強していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に地域の方も参加できるように避難訓練を実施している。 普 段から地元消防団の方々に対して協力を求めている。	○	特に夜勤帯の勤務者が1人になったときの対処方法を考え、マニュアル化しておきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	契約時に考えられるリスクについて説明をし、同時に事業所としても全力で支援に当たることを約束している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	様子がおかしかったり、バイタルでいつもと違った数値が出たときには看護師や他の職員と相談をし、適切な処置をしている。	○	個人介護記録の内容が非常に乏しいため、以前の状態がわかりにくい場合があるので、記録内容を見直し、後々でもわかるように記録していけるように話し合いたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に、薬剤記録などを参考にして適切な投薬をしている。 飲み忘れ等が無いように勤務者全員が確認し合っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼りすぎないように食事内容を考えて献立表を作成したり、日頃の運動で自然な排便ができるようにしている。 朝、昼に体操を継続的に実施し、代謝を良くし、排便を促すようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後には口腔ケアを実施し、困難な方には職員が介助をしている。 担当歯科に往診に来ていただき口腔ケアを受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録表に摂取量等を記入し、それぞれの食事摂取量がわかりやすいように記録されている。 食べられない、食べにくい食事であった場合はその都度職員が介助をし、荒刻み食にするなど食べやすくバランスの良い食事摂取に心がけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成し、感染症の発症を未然に防いでいる。 インフルエンザの毎年の摂取は利用者様、職員共に必ず行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒が必要な物は消毒をし、事業所からの感染症の発症は絶対に出さない思いで衛生管理を行っている。 食事で生物などを扱う場合は、できるだけ当日に買い物に行くように予定を立て、食中毒防止にも心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域の方や中学校にも協力をしていただき、プランターや鉢植えなどで季節の花を植えていただき、来訪者様が気安い雰囲気を作り出している。	○	日常の業務に追われ、手入れにまで手が回らないこともあるので時間を作り、天気の良い日などに利用者様と草引きなどの手入れをして良い雰囲気作りをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日利用者様の協力を得て一緒に施設内を掃除をし、清潔保持に努めている。 季節を取り入れたディスプレイを掲示し、自宅での生活と変わらないような生活品の配置にも心がけている。	○	利用者様個人の居室は、できるだけ一緒にできるように支援をしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時間以外は利用者様が好きな場所で過ごせるように配慮している。 食事時間には気の合う方と隣席になるように考え、居心地のいい時間を過ごしていただけるようにしている。	○	居室ではなく共有空間で独りになりたい人がいても、周りの音などが気になる方もみえるので、ハード面での改善は難しいと思うが、共有空間での過ごし方の見直しをしながら快適な空間になるように考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等はすべて自宅から持ってきていただく物ばかりで使い慣れた物等を使用していただいている。	○	使い慣れた物だけにこだわるのではなく、利用者様個人が使いやすい機能を重視した物を取り入れることもこれから必要になってくると思うので、現在使用している家具や居室内の物に関してはご家族様、利用者様と話し合い再検討をしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	特にトイレや浴室、洗濯室などの臭いが廊下、居室、リビング等に広がらないように使用後の換気には気をつけている。室内の温度も職員中心の温度設定ではなく、利用者様中心で設定し、散歩にも行けるように内外の温度差をできるだけなくすようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを基本に、できるだけ歩行可能空間には物を置かないように気をつけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご自分でできる事はやって頂き見守りを重点に行っている。トイレや居室などわかりやすく表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスを設けて洗濯干し等が自分のできるようにしてあり、外に出られると自然を感じるようにされている。	○	花が好きな人はテラスでプランターなどを使って花を育てられるようにしたり、テラスでの楽しみ事をもう少し増やしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外出、行事を多く取り入れて利用者様にできるだけ身体を動かしていただきADLの低下を防ぐようにしている。
 地域の方や中学校の多大な協力のおかげで地域の方々との交流もとても多く、事業所行事、法人行事などにも多く参加していただき、深く交流をさせていただいている。
 理事長の兼務である富野農業センターの職員の方々が、無農薬野菜を提供して下さるので、食の安全の面では非常の安心して食事をさせていただいている。